

02 | アライグマ被害防除



1 アライグマの生態・見分け方

<生態>

- 天井裏があるような物置、空き家、増築・改築された家などは棲み処になりやすい。
*特に被害が多いのは昭和40年頃に建てられた建売住宅。通気口の網が壊れやすく、そこから床下に入り、壁の隙間を伝って天井に移動する。
- 1年で最大7頭（平均4頭）産み、11月に子離れすることが多い。
- 完全な夜行性ではない。
- 前足はセンサーのようになっており、足裏感覚の変化に敏感
- 寺や神社の柱などに、斜めですっと引っかかれたような爪痕があれば、アライグマが周辺にいる可能性が高い（棲み処としている場合も多い）

<中型獣の見分け方>

- 足跡  による見分け方：アライグマは指が長いのが特徴。



アライグマ



ハクビシン



たぬき



アナグマ

- アライグマorハクビシンで迷ったとき
⇒ 柱などに爪痕が残っている場合はアライグマの可能性が高い。
- ハクビシンortたぬきで迷ったとき
⇒ 水がない所にため糞がある場合はたぬきの可能性が高い。
- ハクビシンorあなぐまで迷ったとき
⇒ 夜に見かける場合はハクビシンの可能性が高い。

2 柵・わなの設置におけるポイント

- ぶどう棚の周りにワイヤーメッシュ柵などを設置すると、中に入れないアライグマは柵の周りをぐるぐると走り回る。
⇒柵の外にわなを設置すると、効率よく捕獲できる。
- 畑の周りを柵で囲えない場合は、畑での捕獲をあきらめ、寝床などを狙うとよい。
- アライグマは、初めて見たものを探索する習性があり、探索したときに感電する。
- 一度、電柵で感電すると、7～10日は来ないことが多い。
*ぶどうの収穫は15日程で終わるので、一度感電するとそのシーズンの作物は守ることができる。
*収穫の期間だけ電気柵を張ればよい。

3 捕獲のポイント

- 捕獲の時期は11月～4月。
- 雌は冬にほとんど動かないため、4月中旬～5月下旬に捕獲するのがよい。
*子供を産んですぐのメスを捕獲すると、子供だけでは生きていけないので、まとめて防除することが可能。
- アライグマは周りの個体が捕獲されてもあまり逃げていかない。
*家族の一部を捕獲後、3日程度は、捕獲されなかった個体も同じ場所に訪れることが多いので、この間を狙って捕獲するのがよい。
- 箱わなを2～3台設置し、家族をまとめて捕らえるとよい。
- 収穫後に、ほ場の中に箱わなを設置するのも効率的に捕獲できる。
- 箱わなのサイズは、奥行き65cmあると捕獲可能。
- 柿や銀杏などが好き。また、畜産用の餌なども食べる。
- 箱わなの餌には、キャラメルコーンが最も良い（特にメイプルシロップ味）。ドーナツ、揚げパン、鶏のから揚げなども活用できる。
- 箱わなに餌を設置する際は、水切りネットや網でできたペンケースを使用するとよい。
- エサは箱わなの奥斜め上にしっかりとつけて、エサをつけた部分の後ろには、後ろから食べられないようにネットをつけておくとよい。
*リンゴや落花生は、猫が食べないため、猫の誤捕獲が多い地域では効果的。
- アライグマは外来生物なので、個体数をゼロにする気持ちで、被害が無くても積極的な捕獲を行う必要がある。

4 講習会での質疑応答

- Q. アナグマやハクビシンの好物は？
- A. バナナが好き。特に、黒くなりよく熟れたバナナがよい。
- Q. スルメが餌によいと聞いたが、本当か？
- A. とりたてて良い訳ではないが、秋から冬はいいかもしれない。
- Q. ぶどうの木の幹に鉄板を巻くのは効果的？
- A. つなぎ目に爪をひっかけるのであまり意味はない。柵などの囲いをうまく利用した方がよい。
- Q. 箱わなを複数置く場合は、どのような形で置いたらよいか？
- A. 離して置くよりも、並べて置くとよい。

